

事項	りんごわい性台木「青台3」、「JM1」、「JM7」の繁殖法																				
ねらい	りんごわい性台木「青台3」、「JM1」及び「JM7」を効率的に繁殖する方法が明らかになったので、参考に供する。																				
指導内容	<p>1 台木別繁殖方法</p> <table border="1" data-bbox="464 506 1002 712"> <thead> <tr> <th rowspan="2">台木</th> <th colspan="2">挿し木</th> <th rowspan="2">取り木</th> </tr> <tr> <th>挿し木箱 利用</th> <th>ほ場に 直接</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青台3</td> <td>可</td> <td>不適</td> <td>適</td> </tr> <tr> <td>JM1</td> <td>可</td> <td>(可)</td> <td>適</td> </tr> <tr> <td>JM7</td> <td>適</td> <td>適</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 (可)は推定。 2 挿し木 適：良苗率70%以上、可：良苗率50%以上70%未満、 不適：良苗率50%未満 3 取り木 適：M系台木より優れる、可：M系台木とほぼ同等</p> <p>(1) 「青台3」の繁殖は取り木が効率的である。挿し木では挿し木箱の利用が必須である。 (2) 「JM1」の繁殖は取り木が効率的であるが、挿し木も可能である。 (3) 「JM7」の繁殖は挿し木が効率的である。</p> <p>(参考) 挿し木箱は、内法が52×32×22cmの発泡スチロールを利用し、底に小石を2～3cm敷き、用土は黒ボク土を17cm程度とし、表面を黒ポリフィルムで覆った。 (なお、詳細については「りんご生産指導要項」を参照のこと。)</p> <p>2 挿し穂の採取部位 挿し穂は1年枝の基部～中央部から採取する。ただし、「青台3」では中央部の活着率が低いので、基部のみから採取する。</p>			台木	挿し木		取り木	挿し木箱 利用	ほ場に 直接	青台3	可	不適	適	JM1	可	(可)	適	JM7	適	適	可
台木	挿し木		取り木																		
	挿し木箱 利用	ほ場に 直接																			
青台3	可	不適	適																		
JM1	可	(可)	適																		
JM7	適	適	可																		
期待される効果	1 台木の繁殖を適切な方法で行うことができる。 2 苗木を効率的に自家生産することにより、種苗費の節減が図られる。																				
利用上の注意事項	1 挿し木方法及び取り木方法は、りんご生産指導要項に準ずる。 2 挿し木用の穂木及び取り木用の母株はウイルスフリーのものを用いる。 3 挿し木及び取り木は土壌病害（紋羽病、根頭がんしゅ病）の心配がないほ場または土壌で行う。																				
担当	青森県農林総合研究センターりんご試験場 栽培部	対象地域	県下全域																		
発表文献等																					

【根拠となった主要な試験結果】

表1 挿し木箱を利用した場合の挿し木繁殖性 (平成9、11～14年 青森りんご試)

台木	挿し穂の採取部位	活着率 (%)	新しょう長 (cm)	良苗率 (%)	試験年
青台3	基部	90	57	50	H. 9, 11～14
	中央部	34	29	8	
	先端部	26	24	6	
JM1	基部	90	88	60	H. 9
	中央部	70	93	60	
	先端部	10	56	0	
JM7	基部	90	91	75	H. 9, 11
	中央部	80	99	80	
	先端部	35	78	30	
マルバカイドウ (参考)	基部	100	154	95	H. 9, 11
	中央部	100	148	85	
	先端部	100	132	30	

(注) 良苗率：台木として利用可能な程度の根量と容易に接ぎ木できる太さがある苗木の挿し木本数に対する割合。

表2 ほ場に直接挿し木した場合の繁殖性 (平成11年 青森りんご試)

台木	挿し穂の採取部位	活着率 (%)	新しょう長 (cm)	良苗率 (%)
青台3	基部	40	17	10
	中央部	0	-	0
	先端部	0	-	0
JM7	基部	90	99	70
	中央部	100	104	90
	先端部	30	79	30
マルバカイドウ (参考)	基部	90	114	80
	中央部	90	114	70
	先端部	90	84	30

表3 取り木繁殖性 (平成12～14年 青森りんご試、平成15年 青森農林総研りんご試)

台木	母株当たり獲得苗木数	苗木長 (cm)	発根部位長 (cm)	根量別苗木割合 (%)			母株当たり獲得良苗数
				少	中	多	
青台3	5.2	64	20	12	28	60	2.9
JM1	4.1	99	17	34	38	28	2.6
JM7	3.8	88	16	49	39	12	1.8
M. 9EMLA	4.4	71	16	40	45	15	2.4
M. 26	4.1	92	18	34	49	17	2.4
M. 27	5.7	66	15	51	35	14	1.8

- (注) 1 取り木は母株 (切り株) から発出した新しょうに盛土する方法で行った。
 2 「JM1」は平成13～15年の3年平均、「JM1」以外は平成12～15年の4年平均。
 3 根量 少：根量が少なく、さらに1年間養成が必要。
 中：台木として何とか利用可能な程度の根量。
 多：根量が十分。